

平成23年度 ひきこもり対策推進事業委託業務

ひきこもり対策推進事業
状況報告書

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

はじめに

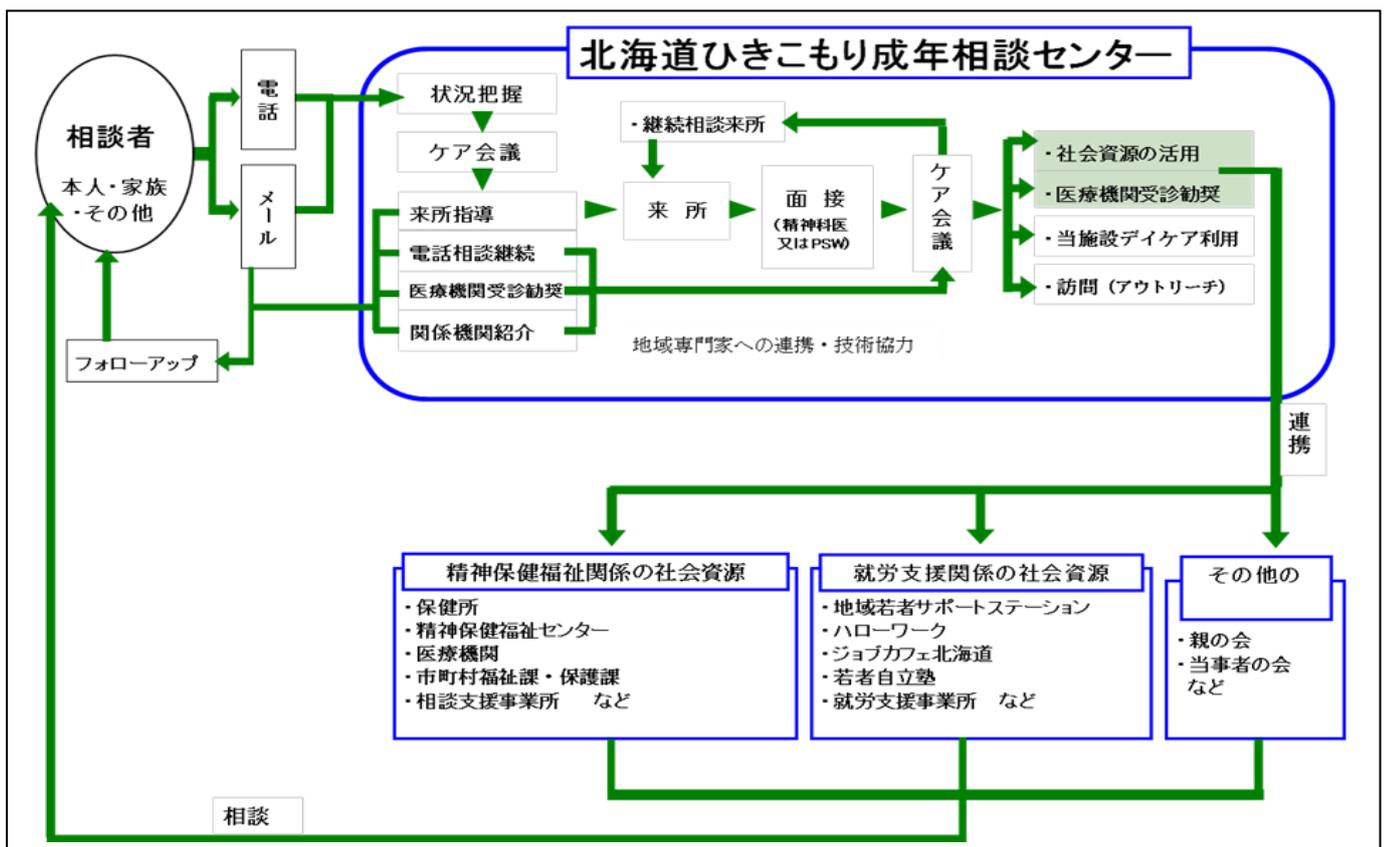
当財団では、平成 21 年度から「ひきこもり対策推進事業」を北海道より受託し『北海道ひきこもり成年相談センター』を設置し、第一相談窓口としての機能を果たすとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民に対する普及啓発を行ってきた。

これまでの経験で相談事例の中には、“どこに相談していいのかわからない道民”が、いまだに多くいることを実感している。例えば、保健所でひきこもり相談はできないと思っていたり、過去にいくつかの機関に相談はしたものの、状況に変化がなく疲弊し、そのまま放置している家族も沢山いることが分かった。いずれにせよ、ひきこもり相談においては、一つのケースに複数の問題が重複しているなど複雑かつ困難なケースも多数存在し、状況に応じた多様な支援の手段が必要である。

結論として、ひきこもりに対する支援は、年単位にわたる長期の支援が必要になる覚悟を持ち、各ケースのペースを尊重しつつ、動きだすタイミングを待ち、支援を途切らせずに取り組むことが必要と考えている。

平成 23 年度の具体的な実施状況は以下のとおりである。

図 1 相談支援の流れ

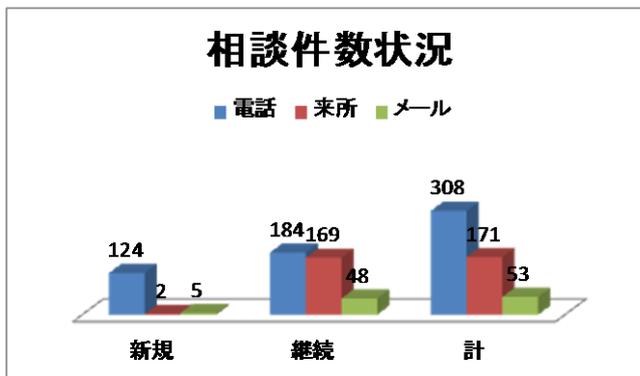


1. 実施状況

当施設では、平成 21 年 7 月 1 日からひきこもりの相談事業を開始し、平成 23 年度の支援実績は以下の通りである。

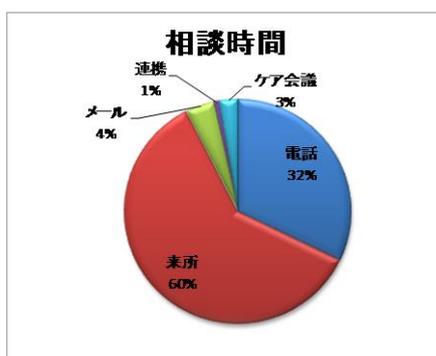
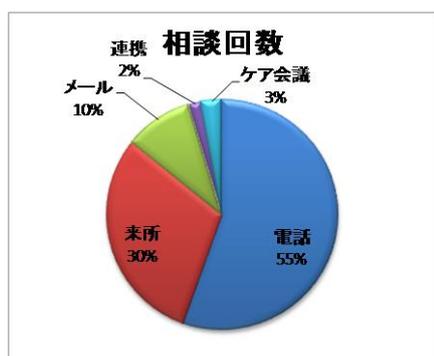
①【相談件数集計】

	新規	継続	計
電話	124	184	308
来所	2	169	171
メール	5	48	53
小計	131	401	532
連携	—	10	10
ケア会議	—	16	16
小計	0	26	26
合計	131	427	558



②【相談時間区分】

	0～15分	15～30分	30～60分	60分以上	相談回数	相談時間	平均時間
電話	98	87	111	13	309	125:10	24分
来所	1	2	8	158	169	234:50	1時間23分
メール	27	13	11	2	53	16:00	18分
連携	3	5	2	0	10	2:50	17分
ケア会議	1	2	10	3	16	10:25	39分
計	130	109	142	176	557	389:15	41分



- 新規相談の 131 件のうち、本人及び家族の相談継続が 61 件(本人 14 件、家族 47 件)であり、46, 6%の方が相談継続となっている。
- 平成 21 年度からの継続相談者は 7 名、22 年度からの相談者は 15 名であった。
- アフターフォローにより、相談再開に繋がったケースもあった。

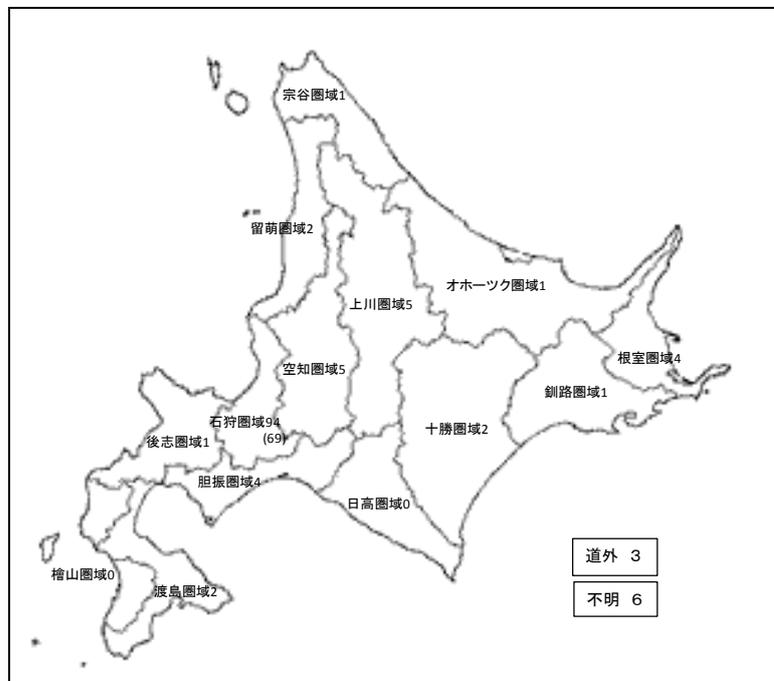
③【新規相談者の相談手段別状況】

	電話	来所	メール	計	%
本人	48	2	1	51	39%
父	8	0	1	9	7%
母	45	0	0	45	34%
妻	0	0	0	0	0%
両親	0	0	0	0	0%
兄弟姉妹等	10	0	3	13	10%
その他	12	0	0	12	9%
不明	1	0	0	1	1%
計	124	2	5	131	100%

- ・相談手段では、電話相談が124名（94.6％）で圧倒的に多い。
- ・相談者は親が54名（41.2％）で一番多く、次いで本人の51名（38.9％）であった。

④【新規相談者の住所状況】

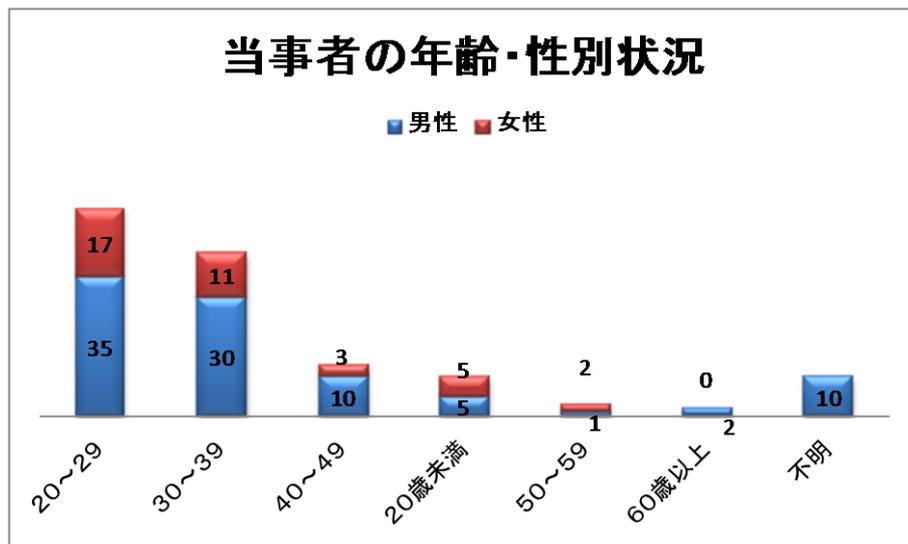
石狩圏域	94
(札幌市内)	(69)
後志圏域	1
空知圏域	5
胆振圏域	4
日高圏域	0
渡島圏域	2
檜山圏域	0
上川圏域	5
留萌圏域	2
宗谷圏域	1
オホーツク圏域	1
十勝圏域	2
釧路圏域	1
根室圏域	4
道外	3
不明	6
計	131



- ・石狩圏域が94名（71.6％）で内69名（52.7％）が札幌市民であった。
- ・宗谷圏域、渡島圏域、根室圏域など遠隔地域を含め全道各地からの相談があった。

⑤【本人の年齢・性別状況】

年齢区分	男性	女性	計	%
20歳未満	5	5	10	8%
20～29	35	17	52	40%
30～39	30	11	41	31%
40～49	10	3	13	10%
50～59	1	2	3	2%
60歳以上	2	0	2	2%
不明	10		10	8%
計	83	38	131	100%



- ・20代の方が62名（48％）で一番多いが、30代以上の方が59名（45％）おり、ひきこもりの高齢化が伺われる。
- ・性別では男性が83名（64％）と多い状況であった。

⑥【他機関への相談経験の有無】

	計	%
相談経験有り	104	79%
相談経験なし	25	19%
不明	2	2%
計	131	100%

- ・当センター相談以前に他機関への相談経験のある方が、104名（79％）であり、これまで様々な機関に相談していたことが分かる。
- ・主な相談先では、医療機関が最も多く（88件）、次いで精神保健福祉センター（道・札幌市）、保健所、サポートステーションの順であった。

⑦【ひきこもり相談から当施設デイケア（通所）に至ったケース】

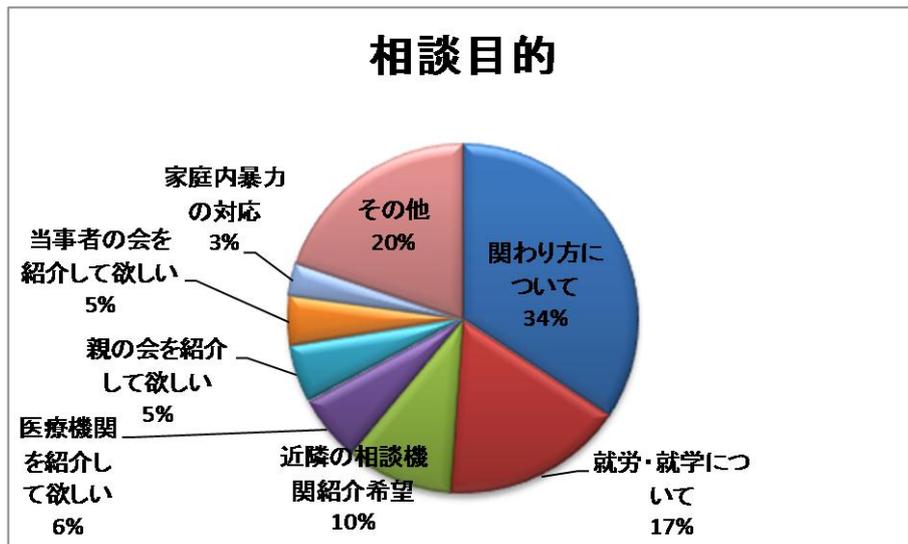
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成21年度						2		2					4
平成22年度												1	1
平成23年度	2				1	1				1			5
計	2	0	0	0	1	3	0	2	0	1	0	1	10

- ・ひきこもり相談から当施設デイケア利用に至ったケースは、これまで10件あった。
- ・平成23年度では、5名の当事者が通所開始となった。
- ・平成23年4月に通所開始となった2名は平成21年度から、8月から通所となった1名は平成22年度からの相談者であり、本人と関わり始めてからデイケア利用に至るには、ある程度の期間を要することがわかる。
- ・現在、就労継続A型事業所で就労中の者が1名、就学準備中の者が1名である。

⑧【相談目的】

内容	計	%
関わり方について	45	34%
就労・就学について	22	17%
近隣の相談機関紹介希望	13	10%
医療機関を紹介して欲しい	8	6%
親の会を紹介して欲しい	7	5%
当事者の会を紹介して欲しい	6	5%
家庭内暴力の対応	4	3%
その他	26	20%
計	131	100%

・相談内容では「関わり方について」が一番多く34%であり、家族が関わり方で困っていることが分かる。



⑨【初回相談対応状況】

	計
終了	54
	41%
助言終了	36
受診勧奨	2
関係機関紹介	8
メール返信	8
電話相談継続	27
	21%
来所を指導	47
	36%
その他	3
	2%
計	131

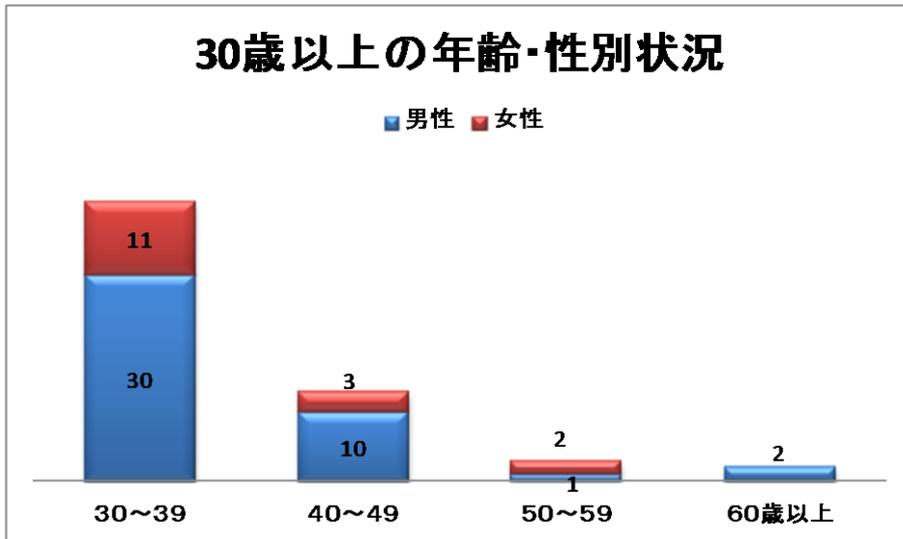
- ・初回相談で終了したケースが54件（41.2%）で、そのうち助言終了が36件であった。
- ・電話相談継続が27件、来所を指導が47件で計74件（56.5%）が継続相談を要すると判断し対応した。
- ・助言終了後も再度、電話相談があったケースもあった。

2. 高年齢層への対応（30歳以上）状況

①【年齢・性別状況】

年齢区分	男性	女性	計	%
30～39	30	11	41	69%
40～49	10	3	13	22%
50～59	1	2	3	5%
60歳以上	2	0	2	3%
計	43	16	59	100%

- ・30歳以上の高年齢層は131名の対象者中、59名（45%）であった。
- ・高年齢層では、30代が一番多かった。
- ・男女比では、男性が43名（73%）であった。



②【相談者内訳】

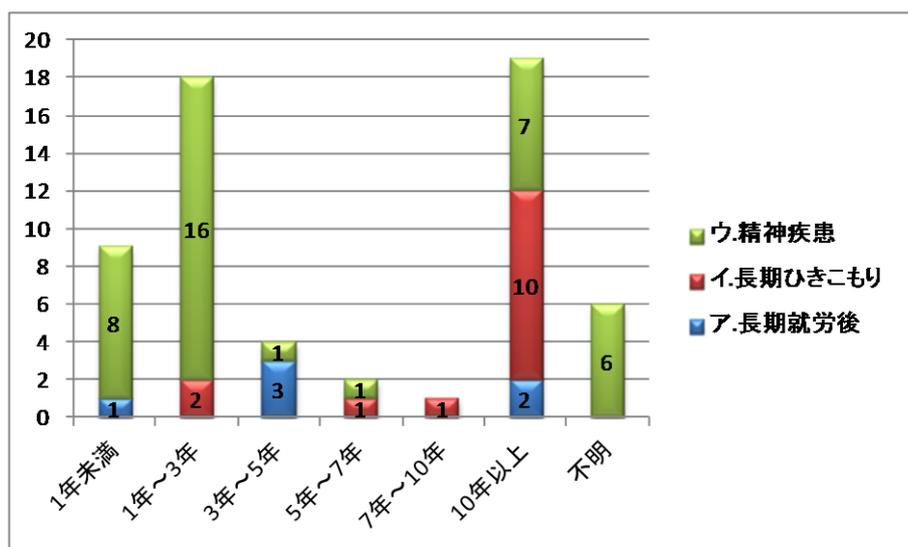
	来所	電話	メール	計	%
本人	1	19	1	21	36%
父	0	5	0	5	8%
母	0	21	0	21	36%
両親	0	0	0	0	0%
兄弟姉妹等	0	6	2	8	14%
その他	0	4	0	4	7%
計	1	55	3	59	100%

当施設に相談のあった30歳以上のひきこもり本人（59名）について、その内容を分析した結果、以下の3群に分類することができた。

③【30歳以上のひきこもり本人の状況】

- ア. 長期間就労していたが、リストラや倒産、不況による廃業など社会的な状況で失業したことをきっかけにひきこもった場合
- イ. 思春期・青年期の10～20代から長期間に渡るひきこもりの場合。就労経験はないか、ある場合でも短期間で社会経験が乏しい
- ウ. 精神疾患によりひきこもっている場合

ひきこもり期間	ア.長期就労後	イ.長期ひきこもり	ウ.精神疾患	計
1年未満	1		8	9
1年～3年		2	16	18
3年～5年	3		1	4
5年～7年		1	1	2
7年～10年		1		1
10年以上	2	10	7	19
不明			6	6
計	6	14	39	59



・10年以上の長期ひきこもり者が19名（32.2%）と多く、ひきこもりの長期化が伺われる。

3. 支援ネットワークの構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ支援機関への施設見学や支援者連絡会、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。状況は以下のとおりである。

①会議及び関係機関職員研修会等の

ワークショップ	田中康雄先生 (北海道大学大学院教育学研究 院附属子ども発達臨床研究セ ンター教授)	NAT (多職種連携の ためのアセスメント・ プログラム)	35名(21 機関)
ケース検討会	当施設スタッフと関係機関ス タッフによる事例検討	1 回実施	名寄保健所
		1 回実施	留萌保健所
		3 回実施	さっぽろ若者サ ポートステーシ ョン

②ネットワーク構築

月	日	実施内容	備考
4	19	22 年度状況報告書・リーフレット送付	広報 (113 機関)
5	30	実績資料作成送付	さっぽろサポステ
10	17	北広島市よりひきこもり事業について相談あり	北広島市保健師
11	2	岩見沢保健所 (ひきこもり講演会について)	メール
11	5	岩見沢保健所 (ひきこもり講演会について)	メール
11	8	留萌保健所 (ケース検討会について)	電話及びメール
12	2	石狩市職員来所	研修会について
3	2	レター・ポスト・フレンドとスカイプ連絡会議	
3	6	とまこまい若者サポートステーションとスカイプ連絡会議	
3	14	さっぽろ若者サポートステーションとスカイプ連絡会議	

③会議参加

月	日	実施内容	備考
5	26	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	2 名出席
7	19	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	2 名参加
9	16	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	2 名参加

11	15	北海道地域若者サポートステーション連絡会議参加	1名参加
11	15	北海道子ども・若者支援地域協議会参加	1名参加
11	18	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	2名参加
1	11	社会的包摂ワンストップ相談事業説明会参加	2名
1	27	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	3名参加
3	26	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加

④関係機関との交流

月	日	実施内容	備考
4	22	石狩市職員来所（2名）	ひきこもり実地調査の件
4	28	北海道ひきこもり支援ハンドブック寄贈	レター・ポスト・フレンド
5	2	毎日新聞電話取材	
5	19	消費者金融機関より多重債務予防について説明	プロミス
6	15	YOUスペース職員来所（3名）	札幌自由が丘学園
6	17	札幌少年鑑別所見学会参加	1名参加
1	6	札幌大講師来所	ひきこもり調査依頼

⑤研修

月	日	実施内容	備考
7	20	「YOUスペースフォーラム」講師	所長ほか1名
8	9	名寄保健所 ケース検討会	2名参加
8	17	さっぽろ若者サポートステーションとケース検討会	6名参加
10	5	NAT（多職種連携のためのアセスメント・プログラム） ワークショップ	35名参加
10	12	さっぽろ若者サポートステーションとケース検討会	5名参加

11	29	留萌保健所「ひきこもりケース検討会」	2名参加
12	1～2	平成23年度ひきこもり対策研修（厚労省）	1名参加
12	10	PSW協会札幌3ブロック合同研修会シンポジウム講師	1名
12	13	岩見沢保健所「ひきこもり講演会」講師及び相談会	所長ほか1名
2	17	青少年育成関係団体懇談会講師	1名
2	22	さっぽろ若者サポートステーションとケース検討会	5名参加
2	29	中標津保健所「ひきこもり・不登校家族支援者交流会」講師	所長
3	3	石狩市「ひきこもり講演会」講師	所長ほか1名

⑥その他

月	日	実施内容	備考
4	5	北海道大学大学院生来所（1名）	修士論文インタビュー
8	26	北海道大学大学院生来所（1名）	修士論文インタビュー
9	2	北海道医療大学学生来所（1名）	卒業論文インタビュー

4. 普及啓発

①普及啓発

月	日	実施内容	備考
5	2	石狩市より相談先機関掲載依頼	
5	13	北海道医療新聞記事掲載	
5	16	帯広保健所リーフレット送付	50部
11	8	北海道新聞取材	
11	10	UHB電話取材	
11	17	北海道新聞取材	
12	3	道新記事掲載	
12	13	リーフレット送付	関係機関280ヶ所
1	10	滝川市立病院・麦の子発達クリニック心理士	リーフレット10部送付
1	17	道内地域FM放送局にリーフレット送付	25か所

② 講演会等の企画実施（一般市民を対象）

石狩市「ひきこもり講演会」 ①「こころとからだの健康面から見たひきこもり」 ②「ひきこもり相談の実際」	阿部幸弘 （こころのリカバリー総合支援センター所長） 三上雅幸 （北海道ひきこもり成年相談センターコーディネーター）	76名 （ほか動画視聴 33名）
---	---	---------------------

③リーフレットの作成配布

講演会や各種会議などを活用し、ひきこもり本人及び家族に向けたリーフレットを配付した。

④インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

※ひきこもり相談ホームページアクセス件数 4, 232件
 （平成23年4月1日～平成24年3月31日）